

「脱炭素社会急いで」

COP26連動中央駅で訴え



気候変動対策の強化

を求めて全国の若者で
結成した「未来のため
の金曜日（FFJ）」
中心メンバーで、鹿児島
大学水産学部2年の
中村涼夏さん(20)が6
日、鹿児島市のJR鹿
児島中央駅前で「今な
ら気候変動は止められ
る」と脱炭素社会の早
期実現を訴えた。

気候変動対策の重要性
を訴える中村涼夏さん
(左から2人目) 16
日午後、鹿児島市中央
町(南正和撮影)

(7面参照)

英国で開催中の国連
気候変動枠組み条約第
26回締約国会議（COP
26）に合わせた活動
で、東京や宮城県など
のFFJメンバーと
連動して実施した。

雨が降る中、中村さ
んは約1時間半、街頭
に立った。石炭火力を
2030年度も使う方
針を示した政府のエネ
ルギー基本計画に触
れ、「気候変動対策は
不十分どころか、スタ
ートラインに立ってい
ない。世界の脱炭素化

に逆行している」と批
判。「今立ち向かわな
いと私たちの命が危な
い」と強調した。

会員制交流サイト

(SNS)の投稿を見
て駆け付けた人や通り
掛かりの若者、高齢者
約20人が耳を傾け、ス
ピーチに加わる人もい
た。鹿児島市伊敷中3
年の田村翼さん(15)は
「授業で習った地球温
暖化を年齢の近い人
が熱心に語り、身近な

問題と感じた」と話し
た。

中村さんはスウエー
デンの環境活動家グレ
タ・トゥンベリさん
(18)に触発され、2年
前から気候変動対策の
強化を呼び掛けてい
る。中央駅前に立つの
は5回目。「今回が最
も反応がよかった。微
々たる活動かもしれない
けれど一人じゃないと
勇気づけられた」と話
した。(中野あずさ)